

第1回地域力・つながり部会

日 時 平成20年9月11日（木）午後6時30分

場 所 川崎区役所7階会議室

出席者（敬称略）

委員 7名

猪熊俊夫、吉野智佐雄、藍原晃、島田潤二、朴栄子、星川孝宜、宮崎とみ子

1 開 会

事務局 <会議開催の事前公表、会議録の開示、傍聴の順守事項、会議の記録、広報としての写真撮影を説明、出席者の紹介>

2 議 題

（1）部会長の選出

事務局 部会長の選出を行う。専門部会の部会長は、川崎市区民会議条例施行規則第4条第3項に「専門部会に部会長を置き、専門部会に属する委員の互選により定める。」と規定されている。立候補または推薦をお願いしたい。

委員 昨年まで1期やって、星川委員が非常にうまく部会をまとめていたと思う。部会長として星川委員を推薦する。

事務局 ほかになれば、星川委員を部会長に選出することでよいか。

各委員 異議なし

事務局 <部会長が部会長席に移動し、就任のあいさつを述べる。以後の議事進行を委員長に依頼する>

部会長 区民会議の運営要領に「部会長に事故があるとき、又は部会長が欠けたときは、部会長が予め指名する委員が職務を代理する。」とある。猪熊委員に職務代理をお願いしたいと思うがいかがか。

各委員 異議なし

（2）審議テーマについて

部会長 これから審議テーマ及び部会名の決定、課題の検討を行う。事務局に説明をお願い

いする。

事務局 <配布資料に沿って説明>

部会長 審議テーマについて、それぞれ皆さんからご意見をちょうだいしたい。

委員 第一国道などを走ってみても、空き缶やごみが放置されている。川崎に入った途端に汚いなという感じもある。よく街道を走っていて、コスモスがいっぱい咲いているのを見るが、街道をきれいにしていくということもイメージアップにつながると思う。まち全体が和を持って、楽しく明るいまちをつくっていくということが一番だと考えている。

部会長 前回の全体会議で、この部会では地域力やつながりを求めるということをテーマとして掲げていくことに決まったと思う。もう少し事務局で補足していただきたい。

事務局 地域のつながり・地域力とはどういうことかについて、キーワードを資料に記載している。例えば「暮らしやすい地域」「みんながつながる」「次の世代に地域を残す」「世代間のつながり」など。「つながり」というと年齢を超えたつながりもあり、地域団体同士のつながりもある。また、地域力を高めるということも、地域のつながりが基本になってくると思う。地域力を高めるためには、ほかに何か考えられることがあるかもしれないため、資料に書いてあることだけではなく、新たにテーマとして掲げていただいても構わない。

委員 一地域の責任者として、地域の防災等を含めた安心実感、頼れるということが地域では必要だと思う。公に頼ってばかりいてはどうしようもない。災害があった場合、3日間は地域の力で生き延びなければならぬので「自助・公助」というのを1つのキーワードと思っている。自分でできる範囲は一体何なのかということを考え、あとは公の力にお願いするしかないだろう。まず自分たちから、地域から汗を流そうと思っている。

委員 審議テーマでも「地域」を前面的に出した方がいいと思う。地域が1つになろうというのが本来の私たちに与えられた使命だと思う。前は仮称として「地域力・つながり」としたが、「つながり」という文言が入ったほうがいい。世代を超えてみんなが1つになって何かに向かっていかなくてもいけないということで、「手をつなごう地域とのつながり」はどうか。シニア、子どもなどの世代のつながりの重要性や、次の世代に地域を残さなければいけないということを、この2年間で話し合っていけたらいい。

地域が1つになるにはどうしたらいいか。我々だけで無理なら、教育委員会も引っ張り込もうとか、いろいろな話が今後展開されるのかなと思っている。

部会長 前回の全体会議の中でも、例えば「みんながつながるまちづくり」などというのは何人かの方が発言されている。今新たに「手をつなごう地域とのつながり」という提案があった。

委員 資料には「地域力を取りもどそう」のほかに6つのキーワードがあるが、「地域力を取りもどそう」という中にこの6つが全部含まれてしまっていると思う。この地域力を主体としてテーマを考えてはどうか。

委員 教育委員会では、地域に力を持たせるには連携が必要で、そこから融合につながると言っている。その融合というのは、地域や行政、そこにいるさまざまな人たちが、手と手で結び合うことと理解できる。

地域の力を取りもどすということは、逆にいえば地域は今離れてしまってどうしようもない事態が起きているとか、今まさにこんな課題があるということ。それならば、もっとハードな表現にすべきだと思う。何かどうしようもない事態が起きているんだぞと。

委員 今、地域でもスポーツを通して活力をつくっていこう、イベントを通してまちの活性化をしていこうという話になっている。例えば大島地域でも、そういうものを通して皆さんが手をつないで頑張っていこうとしている。

私はもともとスポーツが好きで、子どものころからスポーツを通してまちづくりをしてきた。それをずっと今でも行っている。スポーツを通してまちの活性化をするのが一番簡単にできる。

委員 私はガイド協会で小学生、まちの皆さん方、教職員にも歴史ガイドをしている。教職員も川崎生まれじゃないと自分の学校の周辺すら知らない人が相当多い。ガイドをして一番反応がいいのは子どもたち。僕たちのまちはそんなにいいまちだったの、と。自分の住んでいるまちを大事にしよう、誇りを持とう、そういうことが発想の原点になると思う。

「地域力をとりもどそう」「みんながつながるまちづくり」などは、私は何をすると、そこに具体的に繋がってこない。自分の住んでいるまちを大事にしようということを1人1人が思えば、それには自転車の放置はやめようとか、スポーツ大会をやって連携を良くしようとか、そういう個人レベルで考えるところまでブレークダウンされる。

昔から住んでいる方が亡くなっていってしまうと、そのまちの10年前、20年前をもう

誰も知らない。以前川崎の思い出ということで田島地域を採り上げたことがあるが、ある町内会ではこれをきっかけに高齢者が集まって、我がまちの生い立ちをみんなで1つの文書にまとめたことがある。それにより自分のまちに愛着心が生まれる。それがまちおこしなりの原点ではないか。その結果、連携しよう、手をつなごうというのが出てくると思う。

審議テーマの副題として「私の住んでいるまちを大事にしよう」などと付けると良いと思う。手をつながなくてもできることからやっていけば、そこから隣と手をつなぐ、町内会で手をつなぐということになっていくと思う。

委員 キーワードとしては「誇りを持てるまちに」というのがいいと思う。僕たちのまちはどういうところだと、誰にでも言えるようなまち、それが一番大事だと思う。

委員 ある不動産会社が東京都民の30・40代に、1戸建ての家をつくるとしたらどこに住みたいかとアンケート調査をしたところ、意外に川崎市新百合ヶ丘だった。30代、40代というと、小学生のころが、ちょうどあの団地が造成中の時代。その頃に子どもの意見を相当取り入れて、ガードレールに子どもが絵を描くなどしたため、新百合ヶ丘は子ども時代の思い出のあるまちとなっている。だからアンケートもそういう結果になったと思う。子どもの目線も大事にした「誇りの持てるまち」というのがいいと思う。

委員 8月にお祭りがあったが、最近できた大きなマンションに声かけしたところ、みこしを担ぐ人が倍に増えた。そういう人たちは、こんなにすばらしいお祭りをしたことがない、このまちはすばらしいまちだと喜ばれた。町内会の役員にも、今度はぜひやらせてくれという人が結構いた。いいまちだなと、びっくりしていた。これも地域の力だ。

委員 やはり自信を持たなくては。

委員 そうすると、悪いところが目につき始める。あれを直さなければいけないと。

委員 川崎区は今、新住民もたくさん増えてきているが、なかなか中に入り切れない部分があると思う。私も新しく来た中に入ると思うが、長く住んでいる人はずっとあうんの呼吸でやってきたところがあるので、そこになかなか新住民は入れない。外国人も川崎区は市内で一番多いが、当たり前のことがわからないことが多く、川崎のルールがあると感じる。

そういう新しい方にも川崎の良さを知ってもらうために、新しい人たちとのつながりも含めたことを考えていくことが大事だと思う。まず仲良くなりましょうよというメッ

セージが必要で、日本語は主語がないと思うので「みんながつながる」「あなたと私がつながる」というのはどうか。新しい人も古い人も外国の人も障害のある人もお年寄りもみんなという意味で大きなテーマを置き、その中に個々に地域のことを知っていこうとか、スポーツでつながっていこうとか、細かいことに取り組んでいってはどうかと思う。

部会長 一通り話を聞いた。キーワードとしては「地域力」で、みんな仲良くしよう、つながるということをこの部会のテーマとしていいと思うがいかがか。それぞれの取り組み、スポーツ、文化振興や歴史を見直す、これらもテーマに結びつく個別の取り組みとしてはあっていいと思う。第1期も前期では「区のイメージアップ」、後期では「地域コミュニティの充実」という大きなくりで、いろいろな選択肢を検討した。

委員 福祉、環境、防災、交通などの問題に関しては、官・公がはっきりした形で1つの方向性を示すが、「地域力を取りもどす」というのは、そういう話ではない。だから、何か事態が起きたときに自分たちがどういうものを発信するのか。それをもうちょっと考えた方がいい。

手と手をつなごうというのは当たり前の話。誰かれ差別なくというのは当たり前であって、差別されている事態があったときに、どう手を差し伸べていくかが大事だ。だが今、地域の力という話をすると、もっとやりがいがある、そしてお互いに汗を出せることを探し出さないといけないと考えている。地域のことに無関心で何もしない人が、ある日突然そのことによって触発されてその仲間に入っていく、こういう地域にしたい。そういうものは何なのかという思いがいつもしている。

委員 仲良くしましよと言う必要がないという状況は理想的だが、初めから大上段に構えるよりは、むしろ自分の身の回りを見て、あれはいい、これはいいというものを伸ばしていった方がいい。自分のまちに誇りを持つことが、まちづくりなり地域活性化の一番大事なところだと思う。初めから何をしなければならないというのは、結局誰もついてこなくなってしまう気がする。

また、テーマが標語みたいになってしまうと、他人事になってしまうと思う。

委員 みんな仲良くするのは当たり前だと思っているが、実は仲良くしようよと手を出していない人たちが区の中にもいっぱいいる。私たちが新しい区として目指していくのは、今、手をつなげないでいる人たちにも視点を向けて仲間にしていくという取り組み。区の中ではいろいろな取り組みが行われているが、やっている人たちがわかっていることであって、それ以外の人たちにはなかなか情報が行き着かない。なおかつ漢字の読めな

い人たちはもっと仲間にならない。

具体的に言えば、外国の人たちは仲良くなれない。なぜなら、漢字ばかりの手紙が来てもわからない。町内に張ってあるものも全部漢字だし、町内会に入ることすら知らない。新住民の方たちについても、マンションに自治会がつくられたら町内会の情報が入らない、

委員 日本人の発想だったら中国語やハングルで駅の名前を書く、ということになると思うが、中国やフィリピンの方に聞くと、それよりも日本語に全部ルビをつけるなり平仮名で書いて欲しいとのこと。日本へは平仮名を大体読めるつもりで来るのに、実際は平仮名なんてほとんどない。固有名詞は全部漢字。そこへローマ字で書いたって、今度はローマ字が読めない。

それぞれの町内にいる人がみんなと仲良くなりたという場合でも、問題はいろいろと出てくると思う。アゼリアで観光案内をやっていると、あなた方の団体に入りたいがどういう手続が必要かという質問が意外に多い。地域活動、市民活動をしたい人は大勢いるのだろうが、きっかけがわからないということは多々あると思う。前の全体会議でも行ったことだが、川崎には情報発信の拠点がない。誰でも気軽に相談できるところを地域ごとにつくったっていい。

委員 地域には世代の違った小学生、中学生、高校生もいれば、社会人もシニアもいる。それらの世代がつながるのは当たり前のことなのだが、その当たり前がなかなかうまくいっていない。審議テーマの中にはそういうことも入れたらいいと思う。

委員 「あなたと私がつながるまちづくり」にしたらどうか。それぞれが本当に大事にしているものは1人1人違う。歴史をよく知っている人がいたら、歴史をよく知っている人と私がつながるなど、具体的に個人の持っている、それぞれの団体が持っているものと自分がどうつながるかというまちになっていける。

子育て中のお母さんたちはサークルに入りたいくても、どこに何のサークルがあるのかわからないため、それを1つのネットワークづくりをしようということを、私は今やっている。自分と団体なりがつながっていくことができる、自分の趣味や生活スタイルに合わせて、川崎区の中の同じような人たちがつながっていけるまちづくりを目指していくというのはどうか。

部会長 今、具体的にテーマ案が出ているが、ほかにどうか。

委員 川崎はとにかくいろんな人が集まっている。特に川崎区は非常に多種多様な人たち

が混在しているのだから、新しい都市型の発展を考えなければいけない。誰もが手をつなぐということは、余りにも川崎区は混在しているがゆえに、そのようなテーマが出てきたものと感じた。

委員 みんなの力が寄れば、地域の力が強くなるわけだから「みんなでつくろう地域の和」とか「フレッシュ・ビッグファミリー」というテーマはどうか。

委員 「自分のまちを大事にしましょう」という共通キーワードではどうか。川崎区にはいろんな良いところがある。我がまちにこういういい連携があるよ、そういうものをモデルケースにして伸ばしていくほうがいいのではないか。何かしなきゃならないという義務感をつくるよりは、自発的に出てくるもののほうが長続きすると思う。

部会長 長続きというよりは、区民会議の使命は緊急性、重要性、実現性だが。

委員 一過性で終わったのだったらやらないほうがいいと思う。まちづくりというのはロングスパンで、みんなの価値観や思いを統一していくこと。1年や2年で緊急だからといって、目先のちょっと変わったことをやろうというほうが間違っていると思う。

委員 「みんなでつくろう地域の和」部会というのはいかが。

部会長 「みんなでつくろう地域の和」「手をつなごう地域とのつながり」との意見が出ている。そのほか事務局から提案はあるか。

事務局 提案ということではないが、つながりということで言うと、対象となる方は外国の方、高齢者、障害を持った方などさまざまだと思う。さらには大きな団体同士のつながりなどもある。こういったつながりが結束力になり、最終的に地域力の強化につながるものと思う。最終目的が地域力の強化ということであれば、テーマとしては「つながり」を中心に据えたもので良いのではないか。それを具現化する方法としては、またいろいろと出てきてもいいと思う。

部会長 ここまでの話を聞いていると、「つながり」がキーワードのように思う。

委員 「強いつながりを持つ」「太く強いつながりを」はどうか。

委員 自分たちのまちを大事にする、みんながそういう気持ちになれば、自然につながる

と思う。「つながり」という言葉にこだわる必要はないと思う。「みんなの和」は易しい表現でいいのではないかな。

委員 「みんなでつくろう地域の輪」というのはどこでも使っている。「手をつなごう地域のつながり」がいいのではないかな。

委員 「手をつなごう地域の和」でいいと思う。

部会長 やはり「つながる」というのはキーワードだ。多分皆さんも必ずしもつながっていないのでは。一生懸命それぞれ活動はしていて、地域にはいろいろなグループがあるが、ネットワークがうまく機能していないと思う。連携がとれていたらすごい力を発揮すると思うのだが、つながり力は弱いのではないかな。

また、前回の全体会議の中でも「地域」という言葉は割と皆さんが使っていた。今、地域が疲弊している、地域力がないと言われている。そういう意味では、テーマに織り込むのも良いのでは。

委員 この「つなごう」ということで非常に苦慮していることがある。中商連という連合体があるが、今までは各商店街が勝手にイベントをいろいろやっていてまとまりがなかったものを、1つの協力体制を今つくりつつある。

例えばチネチッタでハロウィンをやった際には、それを周りの商店街が利用して売り上げを向上してくれと。そのかわり、今度はB Eでいいじゃんかわさきをやる際には、こっちの商店街で応援しながら売り上げアップにつなげようと。だから、この「つながる」というのはいろんな意味で大切なことだと思っている。

区PTA協議会の会長をやったことがある。教育では社会と学校と家庭、この3つが一緒にならなければうまくいかない。区のレベルで言えば、校長会とPTA会長と、区PTA協議会が1つになる必要がある。そこで各校長会の先生と区PTA協議会と執行部で話し合ったところ1つの形になり、区レベルでの学校と校長会と家庭とが一緒になったような思いをしたことがある。

この手法を取り入れて、商店街もそのような形で今やっているが、商店街が非常にまとまってきたように思っている。

だから「地域」という場所と、「つながり」という目的をつなげたものが一番いいテーマになると思う。

委員 今言ったことは、地域の連合体全部に言えること。町内会連合会でも、イベントなども含めてまちづくりをしている。「手をつなごう地域のつながり」がいいと思う。

委員 私は地域教育会議をやっているが、子ども会議の中で子どもたちに聞いた中で、手が2本あるから、両方に手をつなげば1人が3人になるよねという話があった。それで結果的に、100人単位の子どもたちが、先生も校長もすべてで、まちの清掃をやろうというところで手をつないだ。

そういうところがだんだんとつながっていく。自分たちの住んでいるまちが次世代につながっていく。先ほど話に出たハロウィンでの協力体制というのは、やはり大きなつながりだと思う。

委員 最初はできないと思っていたが、2年半かかって少しずつ譲歩して今のハロウィン実行委員会ができた。今度はいいじゃんかわさきのほうで実行委員会をつくって、周りで協力しようと。そうやって、一本化しつつある。

部会長 フェスティバルなかわさきという、あれか。

委員 あれはまた別。フェスティバルなかわさきというのは、いろいろテーマをつくりながら、例えばハロウィンだったら5社だが、その5社に協力をしていただいて、京浜急行に広告を出すというようなもの。そっちはそっちで1つのまとまりをつくって、各企業にもまちに協力をしていただいて印象づけようというもくろみ。

部会長 今までの話の流れから「手をつなごう地域のつながり」として良いか。

各委員 異議なし

部会長 審議テーマは「手をつなごう地域のつながり」とする。

(3) 部会名の決定

部会長 部会名も決めたいと思う。「地域力・つながり部会」と、あくまでも仮称でなっているがいかがか。

委員 つながりがあって、それが結束力になって、最後には地域力になるという言葉が、今まで話したことで一番すっきりと私は心の中に入った。「つながり」という審議テーマになったので、部会名は「地域力」でどうか。

部会長 「地域力部会」。ほかにはいかがか。

委員 せっかくキーワードを「つながり」という言葉としたのだから、仮称どおりのほうが良いと思う。

委員 良いと思う。

部会長 両方使って「地域力・つながり部会」でよいか。

各委員 異議なし

部会長 部会名は「地域力・つながり部会」とする。

（４）審議課題について

部会長 今日は審議課題を決めるというところまでは時間的に無理だが、自由に出していただきたい。「地域」「つながり」というキーワードを掲げた審議テーマになったので、その中で何をしていったらいいか。外国人市民の居住関係の問題など、そのあたりを意見として出していただきたい。

委員 地域としては、誰でも参加してもらわなければ困る。先ほど話も出たように、せっかく参加したいなと思っていても話が通じない、読めないというのであれば、これを何とか我々の手でわかるようなものをつくり出していくことに手を出すべきと思う。ここはどうしても避けては通れない問題だと感じる。川崎区はそういう場所だということを強く思って、具体的に何を取り上げるかということを審議していきたい。

委員 もう少しくま学校と連携をとりながら、地域の人が子どもを見られる体制づくり。開かれた学校ということで、確かにどんどん開いていて、イベントもそれなりにやっているが、そこに地域が参加しているようで、なかなかしていない。学校の中にもっともっと地域の者が参入できる方策、それも１つの課題だ。また、中学生の地域への受け入れの方法も。

部会長 前回発言があった、中学生の居場所がない、遊び場がないという話。学校の施設開放も含めた子どもたちの居場所づくりということか。

人関係で整理すると、シニア層、高齢者なども入ってくると思う。

委員 我がまちの自慢探しが良い。そういうものをどんどん伸ばしていく。大師地区には小さなほこらがいっぱいあり、地域がみんな大事にしている。江戸時代から続いたほこらがまだ残っているんだよと、1つの自慢の種のような。そういう意味で、地域を結束させるのは我が町の自慢づくりだ。

部会長 地域の宝探しというところか。

委員 宝と言うと一般論になる。そこへ住んでいる人たちが、立派なおみこしを持っている、おれたちのまちはずっと江戸時代から続いているんだという自慢。宝というのは少し意味が違うと思う。私は我がまちの自慢づくりというのを1つのテーマでもよいのではないか。

委員 外国人の関係では、健康の問題がとても大きい。言葉が分からないから病院に行かないということもあるが、日本人なら健康診断に良く行くが、健康診断も行かない方たちがいる。区で外国人の健康診断をやれないかなと思っている。

もう1つ、今外国語防災マップをつくったりしているが、実際に地震や洪水のときに逃げる場所は、外国人だけが集まるわけではない。地域の中で一緒に避難をする際に、地域の人たちと一緒に外国人が避難訓練をすとか、そういうことができないかなと。

委員 我々町会の活動は、町会費をいただいて行っている。町会に入っていない方は間違いなく活動の成果を共有していかなければならないということで進めている。外国の方で町会に入っていない方々も、もちろん入ってもらわなければいけないと思うが、どのようにフォローしていくかは、行政がどのように促していくかで違ってしまふ。我々の力では限界がある。

委員 外国人以外でも町会に入っていない人たちもいるので、町会単位で考えていくと、どうしても落ちていってしまう人たちがいる。町会も超えて、区の力を借りながら、そこに住んでいる地域の人たちがやれることをやる。自主防災組織があるというのも、防災訓練をやってみて初めてわかったのだが、外国人からするとそこにも入れない。

委員 我々は逆に町会に入ってもらおうという気持ちでいる。ただし、入っていただくには何がしかの協力をしていただきたい。大いに活動の中に入っていただきたいなと。

委員 実はそこでつながりが切れている。町内会に入っていないと、防災訓練に参加でき

ないような話に聞こえてしまう。

委員 これはやむを得ない。行政の力でやってもらうしかない。

委員 ということは、これはつながりが行政の力で切れているということになると思う。
だから、外国人だけではなく、マンションの自治会に入っていて町会に入らない人、その人たちの防災訓練はどうなっていくのか。それこそ1つの防災と分野でも途切れてしまう人たちがいる。

委員 町会に入っていなくても防災訓練に出てくればいい。防災訓練をやるという案内を出す。

委員 その案内が届かない。

委員 届かないというのはおかしい。全部届くようにしている。

委員 届かないのと、読めないこともある。国際結婚の場合などは、町会に入っているにも情報が伝わるようにするには、不思議なことだが外国人の人も一緒にやりましょうという言葉があるかないかで、外国人の人は、自分も仲間だなと思う。主語がないと、自分たちに向かって呼びかけられているという意識がない。地域にはいろんな人がいるので、外国の人も、高齢者の人も障害のある人たちも、自分たちには関係ないと思う部分がある。防災訓練に車いすで行ったら迷惑をかけてしまうからやめておこうと思うこともあると思うが、実際に地震が起きたらみんな一緒。町会費を払ってしようが、払っていなかろうが、全部みんな同じ避難場所に行く。

委員 逆に、外国の方がどうしてそういうことを発信してもらえないのかなと思う。日本語で来る案内書は漢字だらけで読めないならば、もっと平仮名を入れてくれ、ルビをつけてくれ、そういうようなのを発信していただかないと、我々は日本人の感覚で見ているから。

委員 その発信をずっとやってきているが、皆さんご存じない。私たちも外国人の人たちと付き合ううちに、平仮名が読めても、その意味がわからないというのがわかってきた。その国の人たちの使っている言葉で知らせなければ、情報は共有化できない。

今までは外国人の人たちの日本語力に頼って仲よくなろうと思っていたが、こちら側

も外国人の人たちに何かやれることがないかと思う。病院はすごく切実な問題で、最近、通訳をつけて病院に行ったら薬が変わったということもあり、初めて病院のことを考えなければいけないと思っている。

防災訓練にしても健康診断にしても、何かをするときに、自分たちと一緒にじゃない人たちがいるということを視点に入れながらやれないか。防災訓練は今一番気になっているところだ。車いすのおばあちゃんは地震が起きたらどこに連れていくか。地震が起きたときにはヘルパーも自分の身を守るので、誰も助けに行かれない。外国人だけではないので、何かできないかなと思う。

委員 川崎は外国人がいろんな国から入ってきているので、例えば韓国寄りの教育だけでは、対応できないと思う。絞ることができないので、町内会の集まりに外国の方々が積極的に参加して、その中で日本語を覚えてもらうことしか方法がない気がする。

だから、誰かに中心になってもらって、1つの外国人の連合体をつくって、各町内会にお願いしながら、よくお話をして、1つの方向性に向けていかなければ方法がないと思う。

委員 日本に住んでいるのだから、外国人と思わなきゃいい。我々もまちでは誰も差別はしない。周りの人と同じにつき合えばいい。そういうことを自分で思うからいけない。

委員 思うとか思わないではなく、例えば文章が読めない人たちにどういうふうに情報を同じように伝えていくのか。つながるということは、情報を共有することだと思う。それから外国人の人たちも仲間内で集まってしまうから、いつまでたっても言葉を覚ええない。それを助けてくれる日本の人と話すことによって日本語を覚えていくので、それには隣の人と知り合いにならなければいけない。その隣の人と知り合いになっていけるような何かが必要。

川崎区は子育てにかかわるところについては、翻訳・通訳をボランティアがするというシステムがある。町会や行政が出す文書を翻訳するとか、誰かに話をしなければいけないときに通訳が付くといったシステムがあると良いと思う。日本語は子どもは3カ月で覚えるが、大人はいつまでたっても覚ええない。10年たっても日本語が上手じゃない方もいる。そういうところで何か支援ができれば、日本語も喋れて、日本の生活もよくわかるようになっていくと思う。

だから、差別があるとかそういうことが言いたいのではない。

委員 大きな気持ちで、まちの中にどんと飛び込んできたらいい。

部会長 外国人市民の方は今、川崎区がしない7区で一番多い。20人に1人が外国人。その割に、多分皆さんは外国人市民とコミュニケーションがとれているかという、疑問がある。同じまちに住んでいる人同士、できればうまくコミュニケーションがとれた方がいい。それが課題として出た。その課題をどう解決しようかというのは次回以降だ。今日は課題出し。

委員 川崎市は社会福祉協議会が10個あり、それぞれに災害時支援センターがある。支援センターの名簿に登録をすると、町会へ入っていないなくても、こういう人がいると把握される。

結局、自分たちの会員、町会に入っている人たちをまず先に助ける、これはエゴと言われても、どうしてもやむを得ない。会員の安全を一応確保した上で、次に住んでいる人に行動を起こす。即手を差し伸べなければならない方は、行政のほうでちゃんと登録されて氏名が来るので、その中で動けばいいのではないかと。

部会長 この部会でやることは、つながろうということ。行政情報を出したから末端の市民まで伝わるかといったら、必ずしも伝わっていない。町会から情報を出しているだろうと言ったって、読んでいない人は読んでいない。この部会活動を通じて、知らない人が知ることができるような状況をつくり出していく。そのための課題であり、解決方法を皆さんで考えていきたいと思う。

この区民会議に区民の方がもし期待しているとしたら、課題があって、それを解決していく道筋をつけること。皆さん、団体出身の方は戻っていただいて、どういう問題があるかを拾って、この場で検討して、いい方向づけができればと思う。

委員 例えばこの区民会議で何か方針なり政策が決まって、行政と連携してやるというときに、新たに予算が付くのか。あくまでボランティアで自主的運営ということなのか。新たなこういうことをやるには、どうしても行政のバックアップが必要だ。そのときは行政のほうも予算で裏づけていただけるのか。

事務局 区役所の予算の中で協働推進事業費がある。予算をかけて解決しなければいけない区の課題が提起されれば、行政としても予算要求をしたい。

委員 去年はアメリカンフットボールのワールドカップに関して、商店街を花で飾ろうよということがこの区民会議で出てきた。花を飾ろうといっても、商店街はお金がない。それで、花のプランターや種は全部出していただいて、それを育てるのは商店街の中でやった。そのようなこと。

委員 よくわかった。

部会長 今日決まったことは2つ。審議テーマは「手をつなごう地域のつながり」、部会名は「地域力・つながり部会」。また、課題出しの意見としては、外国人市民に関するもの、子どもの居場所関係についてなどいろいろご意見をいただいた。次回以降深めていきたい。

3 閉 会

事務局 <専門部会の日程調整、区ホームページでの会議録公開、市政だより川崎区版への記事掲載を説明>

午後 8時32分 閉 会